

49期の皆さんが明日、巣立つ。想いはそれぞれであろうが、振り返ったときに光陵の3年間で素敵な毎日だったと思えるなら、それは幸せなことだし、そう思ってくれるなら、私は嬉しい。

大切な人たちへ

人との出会いは偶然だ。見知らぬ者どうしだったのに、今はかけがえのない仲間たち。会わずにいれば良かった人など一人としていない。出会いは偶然でも、出会ってからの毎日は共に作りあげる毎日。君の日々、君との日々は、その多くが楽しく素敵な日々だったけれど、ときには迷い、ときには心を塞ぐこともあったと思う。一つのことをやり通し、まっとうするというのはとても困難なことだ。そして、共に何かに向かうとき、真剣になればなるほど心の溝が広がることもよくあることだ。でもね、そんなとき、きっと君のことをいつも見ていてくれる人がいたと僕は思う。アドバイスではなく、むやみに同意するでもなく、ただ見ていてくれる人。そんな心の寄り添いは、きっとながく君の心に消えずに残ることだろう。だから、改めてその日々をかえりみたととき、君は美しい思い出が心に刻まれていることに気付く筈だ。

思い出の数は多ければ多いほど豊かで幸せな未来に向かうことができると、僕は思う。残念だが、光陵での思い出を積み重ねる時間は僅かになった。僅かになったのなら、その僅かな時間を慈しみ、食欲に思い出づくりをすれば良い。そして去りゆくときは、風のように鮮やかに。

そう、光陵での思い出づくりは終わる。

でも君たちどうしの仲はこれからももっと深め、みんなで素敵な大人になっていこう。

素敵な大人って？

そのことと結びつくかどうかかわからないけれど、ずっと思っていたことが僕にある。「一番好きな言葉はやさしさ」と言うことの似合う人になりたいと。無論、達成し得たかどうかは、定かでない。

心やさしき社会のリーダー

3年前の入学式において、新入生49期の生徒に「心やさしき社会のリーダーをめざして光陵生活をおくってほしい」と話した。それ以前にも同様の話はしていたが、「心やさしき社会のリーダー」という言葉で言い切ったのはこのときが最初だった。以後、様々な場面で言い表してきたことは、皆さんが知っているとおりである。すると、「心やさしき社会のリーダーを育成する教育とは何か」あるいは「どうすれば、何をすれば心やさしき社会のリーダーになれるのか」という問いかけも私のところに届くようになった。問いかけが現れることは実に良いことなのだが、そのような具体的方策をもともとも持ち合わせていないものだから、明快な回答はこれまで一度としておこなっていない。

能力の高い生徒の集まる学校にはリーダー育成を謳う学校が多い。高い能力を持つ生徒なら、社会の有為なリーダーをめざすぐらいの気概は持ってほしいものとは思うものの、偉くなれば良いとは思っていないものだから、実に違和感がある。他の機会に述べたとおり、人が集まれば社会が成立し、日常生活の中で私たちは常に自分のこと、仲間のことを考える場面に出会う。皆さんには、仲間のことを考えて、きちんと判断できる人、仲間の幸せを望むことのできる人になってほしい。人は幸せになるために生まれてきたのだから、君は幸せになればよく、そして他者を幸せにできる人になれば良いと思う。そのようなことをできずして、グローバルリーダー、政治のリーダーなどおこがましい。リーダー論の方策より、しっかり学び友と共に歩むことが大切だと私は思う。学ぶとは、自らの無知を知り、無知を一つひとつ解消していくこと、直接には経験できない痛みを知ること。決して人を出し抜いて進路を掴む手段を一義とするものではない。無知ゆえの偏見や思い込み、一面的で狭い視点からしか他者を見ることのできない傲慢さ、そして自己利益の過剰な追求の成果としての力の獲得。そのような者がリーダーとなっても、それはリーダーと呼び得るものと対極にあるものだと思う。何故ならリーダーとは、本来にして心やさしきものに相違ないから。

最後に。「心やさしき社会のリーダー」となる資質が具わった皆さんを、私は誇りに思う。